

# 日立は雇用増と賃上げで社会的責任を果たせ

## 7千億円の赤字は経営の失敗の結果

日立製作所は7千億円の赤字の責任を取る形で社長交代と庄山会長辞任を発表しました。

日立は事業の「選択と集中」を旗印に、不採算部門は撤退や分社化を行い、強みを発揮できる事業への投資の集中を進めてきました。その「集中」させてきた事業が自動車機器関連事業や薄型テレビ事業です。その事業がアメリカのバブル的消費をあてに生産拡大を進めたことで、世界的な金融危機で大損害をうけました。これは文字通り「経営の失敗」によるものです。

## またも働く者に痛みを押し付ける経営施策

社長交代と同時期に発表したのが「業績改善に向けた事業構造改革」と09春闘の回答です。春闘回答では定期昇給の半年凍結、ワークシェアリングに名を借りた賃金カット（3～5%）を強引に押し通しました。

「事業構造改革」では、自動車機器関連事業とコンピュータ事業の分社化を打ち出しました。分社化により「雇用が失われることはない」としていますが、生産拠点の閉鎖・再編にとまなない社員に異動が強制され、異議を唱え

れば早期退職となります。

また、昨年から日立グループ全体で4千人以上の派遣切りが進められています。結局、2兆5千億円もの内部留保はそのままにして「経営の失敗」を「働く者に痛みを押し付ける」施策で乗り切ろうとしています。

## 内部留保の一部で雇用増と賃上げを

今の不況の打開策は、政府もまともな経済学者も「内需拡大」を提唱しています。内需の中で一番比率の高い（50%）消費を増やしてこそ経済の建て直しができます。今まで好景気のおかげでも働く者の賃金はまったく増えていません。そのいっぽうで大企業は内部留保をため込んできました。

日立は日本経団連に副会長を出している日本を代表するリーディングカンパニーです。その大企業が不況打開のためにも内部留保の一部を取り崩して、派遣切りをやめ、派遣労働者を正社員として採用し雇用を増やす、賃金アップで消費を増やすこと。

この決断をしてこそ社会的責任を果し、日本経済の建て直しにも貢献できる道です。

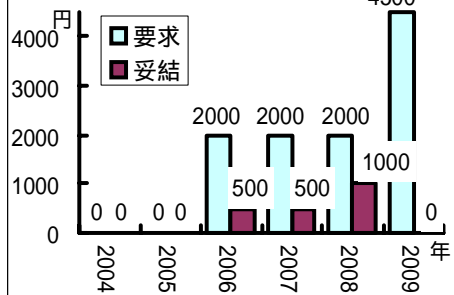


日立の連結内部留保(2008年12月期)

項目	額(百万円)
資本剰余金	560,239
利益剰余金	1,248,774
退職給付引当金	757,603
合計	2,566,616
連結従業員数	401,029
従業員一人当たりの内部留保(万円)	640

有価証券報告書より算出。

日立労組の春闘賃上げの推移



日立懇 <発行> 2009年4月号  
<日立・勝田地区版>

日立関連労働者懇談会

〒108-0073 東京都港区三田3-2-20

(電機労働者懇談会気付)

TEL(03)3455-6006 FAX(03)3451-3595

http://www.hitachikon.net

E-Mail info@hitachikon.net

最寄の連絡先 090-8747-6239 (馬場)



## 日立家電ギフト券廃止 定年祝いどうなる？

定年祝いとして会社から高級な花瓶と日立家電品ギフト券を22万円分をいただいた。ギフト券は日立トラベルでも使えることは知っていたがJTBでも使えることがわかり一安心。ところが、発行元の日立キャピタルHPで2月いっぱい販売中止になっていることを発見。今後の定年者は別なギフト券に変わるのでしょうか、社販にはマイナスではないのかなと心配になった。(大みか)

## ボーナス20万円減額で 暗い話題ばかり

「一致団結いきいき生活」の組合スローガンで始められた春闘。終わってみれば賃上げゼロ、年間一時金20万円減額の回答。生産の海外移転で所々明かりの消えた職場でこれらの生活不安が語られています。

「残業なし夜勤も原則廃止でローンが払えない」「日製は副業アルバイトOKだって」「子どもの進学も素直に喜べない」「保育所がいっぱいで働きにも出られない」「高速料金の値下げでも出かける気分にならない」「晩酌も減らし楽しみがなくなる・・・」など暗い話題ばかりです。

(日立工機)

## 年度末の多忙の仕事量を をならせないのか

年度末に電力関係の受変電盤の仕事量が増えて、派遣社員を受け入れたり、直系列の日立ESから応援をもらい毎日残業でこなしている。他の事業所では派遣社員の雇い止めや希望退職まで行っているのに、ここではまだ不況感がない。消化しきれず作業が4月までずれ込み、短工程での組立・検査に追われ、品質に問題が起きなければ良いのだが心配である。毎年このことはいえ、期末集中形の生産を各月に均等に計画できないのか、疑問を感じる。4月から月1日の休日が増えるけれども、休日出勤の残業日となりそう。(国分)

## 09春闘労働者の思いは

AEパワーでは09春闘も経営側の堅いガードを突き崩すことなく集約となりました。職場では「春闘やってたの？」と年配者！「春闘ってなに？」若年層！「少しでも上がるからいいよね」派遣・下請労働者の声。一方管理職の年俸者からは「組合に頑張ってもらわないと」と期待の声も聞かれます。色々な立場を超えて春闘に期待する声を組合がどう受け止めて行動するかが問われています。(AEパワー)

## カフェテリアポイント 消化は大事な権利

会社の「緊急業績改善対策」

により、09年度のカフェテリアポイントの付与が停止になりました。これに関連して組合から、今年度末(3月31日)に利用期限が切れる07年度からの繰越ポイントを消化するようフォロアアップがありました。組合の報告では、07年度の利用率は59・9%で、総額約8億円(100円/ポイント)が未使用だったとのことです。この制度は、会社が福利厚生を削るかわりに個人へポイントを付与することにしたものです。「手続きが面倒で・・・」という声もありますが、権利として無駄にせず完全消化しましょう。(大みか)

## リストラ「合理化」が 心と健康を蝕む

日立の健康管理センター副センター長さんが「こころ」と「健康」メンタルヘルスと景気と言つ題の中で1月には「自殺」が景気に関係していることをのべ、今回は日立の七千億の赤字報道で働く者の健康を危惧しています。

そのなかで、02年の早期退職優遇制度によるリストラが労働者に心身の健康悪を増幅させた指摘し、リストラは、早期退職を促せられる人、促す人、それをかたわらで眺めている人、それぞれにインパクトを与えたと言います。

今春闘では労働者の生活向上は無く、逆に緊急業績改善対策を押し付けられました。今後がますます心配です。労働者の心と健康を守るのは、賃金アップと安心して働ける職場づくりです。(日立勝田)